

高齢運転者に関する調査研究（Ⅱ）



自動車安全運転センター（調査研究部）
〒102-0084 東京都千代田区二番町3番地 麹町スクエア6F
FAX. 03-3264-8610 <http://www.jsdc.or.jp/report/index.html>



交通事故死者数は減少傾向にありますが、年齢層別死者数をみると、高齢者が占める割合は極めて高く、平成24年は過去最高（構成率51.3%）となっています。高齢運転者については、加齢に伴う身体機能の低下を自身で把握してもらうべく、高齢者講習が平成10年10月1日から実施されました。

この高齢者講習の複数回受講の結果をもとに、高齢運転者の加齢による変化を分析・把握するとともに、高齢運転者の運転状況を把握するため、高齢運転者にドライブレコーダーを搭載した車両を運転してもらい、運転技能評価を実施しました。

1. 調査研究の目的

高齢者講習の結果から、高齢運転者の加齢による変化を分析・把握することによって、高齢運転者自身に身体機能の低下を自覚してもらい、これからも安全運転を継続できるような支援を行うことができる高齢運転者の安全運転教育に資するための基礎資料を作成することを目的とします。

2. 調査研究の構成

本調査研究の構成（概略）を図1に示します。調査研究は大きく①高齢者講習結果の収集及びデータ化、②高齢者講習結果の分析、③高齢運転者のドライブレコーダー映像の収集・分析、④研究結果をまとめた「小冊子」の作成の四つのパートから構成されています。

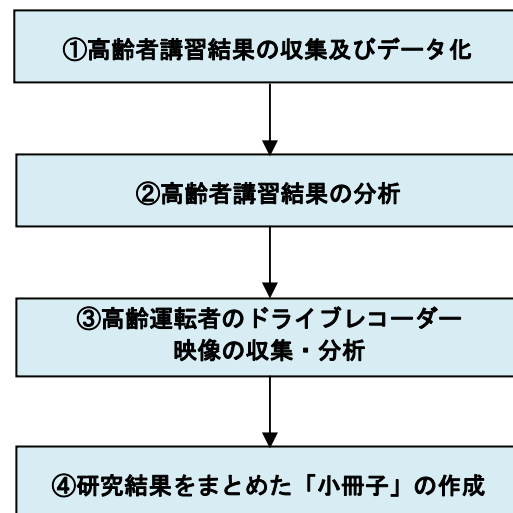


図1 調査研究の構成（概略）

3. 調査研究の概要

(1) 高齢者講習結果の収集及びデータ化

高齢者講習の受講のために自動車教習所に訪れた高齢者のうち、過去に3回以上同教習所で高齢者講習を受講している人から、個人情報を除き、過去3回分について次の資料を収集しました。

- 運転適性診断票
- 動体視力検査結果票
- 夜間視力検査結果票
- 運転頻度等問診票
- 運転行動診断票

今回収集した高齢者講習結果は、以下の測定機器により取得されたものです。

表 測定機器

測定機器名	メーカー名	機種名
動体視力計	株式会社ヤガミ	KV-100
夜間視力計	株式会社ヤガミ	NV-200
運転適性検査機器	三菱プレジジョン株式会社	DS-20 DRAIVING CHECKER

(2) 高齢者講習結果の分析

電子データ化した資料を運転適性診断票、動体視力検査結果票、夜間視力検査結果票及び運転頻度等問診票を整理して、高齢運転者が加齢に伴い、身体機能がどのように変化するのかを調査・分析しました。

○視力の変化

視力は年齢とともに低下していきます。

○アクセル・ブレーキに対する反応時間の変化

反応時間は年齢とともに長くなっていきます。

○視力と運転適性との関連

運転適性診断で良い評価を得ている方は、視力も良い傾向です。

(3) 高齢運転者のドライブレコーダー映像の収集・分析

高齢運転者の運転状況を把握するため、安全運転中央研修所（以下、「中央研修所」という。）に設定したコースにおいて、高齢運転者（約10人程度）にドライブレコーダーを搭載した車両を運転してもらい、ドライブレコーダー映像を収集・分析しました。ドライブレコーダー映像については、個人情報情報を排除して、プライバシー侵害を防ぐものとしています。

走行実験車両には中央研修所の教官が同乗して、運転技能評価を実施し、併せて被験者にアンケート及び、ヒアリングを実施しました。



実験走行の説明



視力測定



実験車両への乗車状況



中央研修所の模擬市街路における実験走行状況

(4) 研究結果をまとめた「小冊子」の作成

研究結果から、高齢運転者が加齢に伴い、身体機能がどのように変化するかをまとめた「小冊子」（写真、イラスト等でレイアウトした10頁程度のもの）を作成しました。

作成した小冊子の構成は次のとおりです。

- ①視力の変化
- ②アクセル・ブレーキに対する反応時間の変化
- ③視力と運転適性との関連
- ④運転技能の問題点
- ⑤一時停止の重要性
- ⑥右左折時のポイント

4. まとめ及び今後の課題

本調査研究では、高齢者講習の過去3回分の受講結果を用いて、運転に係わる身体機能の加齢による変化を分析するとともに、高齢運転者の走行実験を行いました。高齢者講習の受講結果については、反応時間は年齢とともに長くなり、視力が良い人ほど、運転適性診断では良い結果が得られていました。また、走行実験に参加した高齢運転者については、一時停止が不十分で、右左折時の安全確認も不十分でしたが、参加者全員が実行できたと認識しており、これらの不安全行動を高齢運転者自身では気がつかないところが問題のようです。

高齢者に係わる交通事故情勢は益々厳しくなっており、高齢運転者の身体機能の変化を把握し、それを高齢者講習の受講者に情報提供することは極めて重要と考えますが、高齢者講習の受講結果を長期にわたり保存している自動車教習所は極めて少なく、本調査研究では受講データを十分収集できなかったことが今後の課題となりました。高齢者講習の受講データを長期にわたり蓄積・保存することは、検討課題の一つと考えます。

この冊子は、自動車安全運転センターの平成24年度調査研究報告書「高齢運転者に関する調査研究（Ⅱ）」をもとに作成しました。